



13  
1694  
10

照田姓

おしとてあらたにせられたるはわがまゝに  
すめりまぐらとていふはまがれはつとて  
ゆゑとてあつたはありだん意をいひて  
情なるまゝにいふはつとていふはつとて  
中より照田の姓にせられたるはつとて  
魚のまゝにいふはつとていふはつとて  
てとていふはつとていふはつとて  
わいていふはつとていふはつとて  
めとていふはつとていふはつとて  
まがれまゝにいふはつとていふはつとて  
まがれまゝにいふはつとていふはつとて  
まがれまゝにいふはつとていふはつとて



...の侍<sup>侍</sup>やき<sup>き</sup>...  
...の侍<sup>侍</sup>やき<sup>き</sup>...  
...の侍<sup>侍</sup>やき<sup>き</sup>...  
...の侍<sup>侍</sup>やき<sup>き</sup>...  
...の侍<sup>侍</sup>やき<sup>き</sup>...  
...の侍<sup>侍</sup>やき<sup>き</sup>...  
...の侍<sup>侍</sup>やき<sup>き</sup>...  
...の侍<sup>侍</sup>やき<sup>き</sup>...  
...の侍<sup>侍</sup>やき<sup>き</sup>...  
...の侍<sup>侍</sup>やき<sup>き</sup>...



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowed paper. It appears to be a personal communication, possibly a letter, given the use of pronouns and the conversational style. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, similar to the one on the opposite page. It is written on aged, yellowed paper. The text is dense and appears to be a continuation of a letter or a separate page of a manuscript. The script is consistent with the one on the other page.





まつとんの子いぢまらるといふていふまゝのあつていふていふ  
 ぐんやめんちの母をうぢまらるといふていふまゝの子ありしが母  
 我とららざりていふていふまゝのあつていふていふまゝのあつて  
 いふていふまゝのあつていふていふまゝのあつていふていふまゝ  
 およ練形のうぢまらるといふていふまゝのあつていふていふまゝ  
 たかきまゝのあつていふていふまゝのあつていふていふまゝのあつて  
 かのりゆりの國子寒のあつていふていふまゝのあつていふていふまゝ  
 湯湯のはよ出ていふていふまゝのあつていふていふまゝのあつて  
 父をいふていふまゝのあつていふていふまゝのあつていふていふまゝ  
 削つていふていふまゝのあつていふていふまゝのあつていふていふまゝ  
 子いぢまらるといふていふまゝのあつていふていふまゝのあつていふていふまゝ  
 くれ父をいふていふまゝのあつていふていふまゝのあつていふていふまゝ







ありては...  
 かしら...  
 まるき...  
 なま...  
 ま...  
 今...  
 花...  
 ま...



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, covering the right page of the spread.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, covering the left page of the spread.

Small handwritten mark or signature at the bottom left of the page.





つひかきとてあはれしてありき。さきさきとてあはれとてあはれ  
 ぎねど、結しやよあがりいづれあはれとてあはれとてあはれ  
 勢んやとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ  
 もあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ  
 とあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ  
 屋さあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ  
 うあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ  
 よはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ  
 下あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ  
 ちあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ  
 きあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ  
 くあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ



四十一















及び其を以て他國と云ふねと云ふことあるもその事などは  
父と云ふはまたその日と云ふ事ありと云たつて曰く久し  
くやと云ふねばその世に是と神と後を云ふことには  
つらやまを云と云ひありむあることいふ浦小ありやうある  
二のちまより色等あるは云りてうら小を云ふと  
定ぬと云ひてぬりてむとてわたくし物にぬと云ひ  
かろふ事云と云らうまてげくらめぬやけりゆ場あり  
さてその父は國中に少は令してうらまをいひてあり  
ありとの心<sup>また</sup>鬼神のやうありてふれりてわたくし我れは  
とはあるはけりてけりて人ありてありていじと云へば  
は行へば<sup>心</sup>同ありてはけりてありてありてありてありて  
いさらくはにけりてありてありてありてありてあり

む録乃其れに云ふこといしおは程と人のいふこと  
りのことありてきたりて人をいふこといふことあり  
まはれは<sup>心</sup>花の<sup>心</sup>花の<sup>心</sup>花の<sup>心</sup>花の<sup>心</sup>花の<sup>心</sup>花の<sup>心</sup>花の<sup>心</sup>  
とぬめきんてわしげと云ふこといふことありてあり  
ゆふとありてありてありてありてありてありてあり  
年のことありてありてありてありてありてありてあり  
なりけりと云ひありてありてありてありてありてあり  
やまの事ありてありてありてありてありてありてあり  
よか中なりわたりてありてありてありてありてあり  
にたとひはたけりてありてありてありてありてあり  
申しにありてありてありてありてありてありてあり  
とありてありてありてありてありてありてありてあり

























110 卷之三

2020年2月20日



Handwritten text in vertical columns, including the characters '卷之三' (Volume 3) and '三' (3).

